

## 26 人工心肺離脱後における塩酸オルプリノン投与による影響

越谷病院 麻酔科

新井丈郎, 井上 久, 奥田泰久

【目的】冠動脈再建術における, 人工心肺離脱後の塩酸オルプリノンの循環動態および末梢循環に与える影響と, その効果を比較検討した。

【対象・方法】56症例を対象とし塩酸オルプリノン投与群(B群)と非投与群(C群)に群別し, B群では大動脈遮断解除後, 塩酸オルプリノン $15\mu\text{g}\cdot\text{kg}^{-1}$ の1回注入後に $0.1\mu\text{g}\cdot\text{kg}^{-1}\cdot\text{min}^{-1}$ を持続投与した。

【結果】B群では帰室6時間後までC群に比較して末梢循環の指標として測定した末梢温度は有意に高く維持され, 血中乳酸値は有意に低く維持された。またB群では長時間にわたり心係数は有意に高く維持され, 併用カテコラミンの投与量を有意に減量することができた。人工心肺離脱時の塩酸オルプリノンの $15\mu\text{g}\cdot\text{kg}^{-1}$ 1回注入後に引き続く $0.1\mu\text{g}\cdot\text{kg}^{-1}\cdot\text{min}^{-1}$ 持続投与は人工心肺からの離脱を円滑にし, 末梢循環の改善にも有効であった。

## 27. 妊娠中毒症患者の羊水中におけるマクロファージコロニー刺激因子の動態

越谷病院 産科婦人科

堀中奈奈, 林 雅敏, 濱田佳伸, 安藤昌守, 友部勝実, 矢追正幸, 堀中俊孝, 榎本英夫, 大藏健義

【目的】胎盤の分化と増殖を促進するマクロファージコロニー刺激因子(M-CSF)が妊娠中毒症患者の胎盤組織中および血清中で増加しており, 妊娠中毒症の発症に関与している可能性がある。さらにmaternal-fetal interfaceとして羊水が重要であり, 本症患者の羊水中のM-CSFの濃度を測定した。

【対象・方法】妊娠中毒症患者15人と正常妊婦30人から帝王切開および分娩の際に羊水を採取し,  $1,600\times\text{g}$ にて10分間遠沈した後, 上清を $-25^{\circ}\text{C}$ にて凍結保存した。解凍後, M-CSF濃度をELISA法にて測定した。

【結果】羊水中のM-CSF濃度は, 妊娠中毒症患者の方が高値を示した。この結果, 羊水, 胎盤を含めたmaternal-fetal interfaceでのM-CSF産生の亢進が, 妊娠中毒症の病態に関与する可能性が示唆された。